

畑山 敏夫（はたやま としお） 編著者 まえがき・1章・7章

①佐賀大学経済学部（政治学）

②「アクティヴィスト」になりたいと思いつけています。言葉の響きが好きで、憧れてもいます。定年後では、体力が続くかわからないので、今のうちから、と知り合いからアドバイスを受けてきました。「アクティヴィスト」になりたい！

本田 宏（ほんだ ひろし） 2章

①北海学園大学法学部政治学科（政治過程論）

②労組や自治体、大学、メディア、裁判所までも中央政府や巨大企業に従属する国で、野党が育つ基盤をどこに求めればよいのか。国政に展望が見えてこない今、個々人の勇気と連帯が問われていると思う。

金丸 裕志（かなまる ゆうじ） 3章

①和洋女子大学人文学群所属（比較政治学）

②「ポスト・フクシマ」の政治と社会の構想。それは、今を生きこれからを生きる私たちと若い世代にとっての大きな課題です。そこには困難もありますが、希望もあると思います。

土肥 勲嗣（どい くんじ） 4章

①九州大学大学院法学研究院（政治学）

②福島第一原発事故後の脱原発デモに参加した。歩道に比べて車道はこんなにも広いのかと驚く。デモを見る周りの反応を観察するのも楽しい。一歩踏み出すだけで政治の見方は変わってくるのかもしれない。

平井 一臣（ひらい かずおみ） 編著者 5章・あとがき

①鹿児島大学法学部（政治史、地域政治論）

②フクシマを忘れないだけでなく、フクシマから何を汲み取り、新たな市民社会につなげていけるのか。新たな社会への動きは始まっているのかもしれない。自分自身のアンテナを研ぎ澄ませねば。

辻 由希（つじ ゆき） 6章

①京都大学大学院法学研究科（ジェンダーと政治）

②大学の講義でウィメンズ・リップの運動家、田中美津氏が70年代に書いた文章を紹介した。受講生から、挑発的な言葉に面くらったが彼女の告発には現代にも通ずる部分があるという感想を受け取った。

丸山 仁（まるやま ひとし） 8章

①岩手大学（グリーン・ポリティクスとスロー・ポリティクス）

②イーハトーブの地で、地酒と地ビールに囲まれながら、「スローである」ことの意義と可能性にゆっくりと思いを巡らせています。